

第3回 新大橋景観検討委員会 議事要旨

日時及び場所

日時：平成29年6月8日（木）14時00分～16時30分

場所：くにびきメッセ 小ホール

出席者

大屋委員、小草委員、柴田委員（代理：藤井）、田中委員、二井委員長、藤居委員、本間委員、吉田委員、渡部委員

議事次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 第2回委員会について（報告）【報告資料】
4. 議事
 - 1) 新大橋整備基本方針について【資料1】
 - 2) 橋の基本形状について【資料2】
 - 3) 橋上空間について【資料3】
 - 4) 市民意見交換会の開催について【資料4】
5. 閉会

配付資料

委員会次第

座席配置図

委員会規約

委員名簿

報告資料

資料1

資料2 橋の基本形状について

資料3 橋上空間について

資料4 市民意見交換会の開催について

議事概要

※委員会を欠席した委員には予め意見を伺い、委員会にて事務局より報告した。

この議事要旨にも当該意見を記載している。

1. 第2回委員会について（報告）

- ・意見無し

2. 議事1) 新大橋整備基本方針について

【意見】

- ・パブリックコメントは有益なものだったと思う。
- ・かなりの割合の人が「共感できる」とのことだが、40代、50代、70代で非常に少ない割合ではあるが「共感できない」という意見もある。その理由が分かれば聞きたい。
- ・年代別で中身を分析したものはないが、例えば70代でみると全体で41件の回答数。そのうち「あまり共感できない」「共感できない」という意見がそれぞれ2%であり、41件中1件ずつという数字。総数としては少ないと思う。
- ・基本方針は、今後必要に応じて追加することも可能。パブリックコメントを行った結果、この基本方針が概ね理解を得られたと受け取れる。

【総括】

- ・事務局が提案したとおり「安全」という言葉を追加する。

3. 議事2) 橋の基本形状について

【意見】

- ・見慣れている5径間が良いと思う。回遊性を考えると、水辺からの視点も大事。橋を見上げたときに気を惹きつけるようなものがあると橋を渡ってみようという気になる。
- ・資料P.5のS、M、Lの図があるが、それぞれの概算工事費についてお聞きしたい。指数を100とした場合の経済比較をおおまかで良い。

(上記質問に対する事務局説明)

経済性の面については、詳細に積み上げて検討しているわけではないが、今回示している比較案については、ほとんど経済性の差はないと考えている。あっても数%程度で、差し支えないと思っている。

- ・今の話は、完成する橋の経済性なのか。全体の工事費を含めたものか。

(上記質問に対する事務局説明)

橋を架ける際には、当然仮橋や作業用構台が必要になるが、それも含めて同じような費用になると考えている。但し、S案のコンクリート製については、コンクリートの桁が重く下部工が少し大きくなるため、M案、L案に比べ若干費用が高くなるという認識である。

- ・コンセプト、設計方針の言葉から橋の形を想像していたが、この提案は、想像とは違った印象を受けた。橋の印象を決定付けるものの1つとして、桁のデザイン、橋脚のあり方があると思う。松江らしさを表現し、松江の風情に合う橋を考えるとボリューム感のある橋は似合わない。繊細さが必要だと思うが、箱桁ではあまり繊細さを感じられない。橋脚も小判型と聞いているが、本当にそれで良いのかどうか。繊細さを出すためには、先端のデザインをどうするかで決まる。構造的にはある程度のボリュームが必要だが、そのボリューム感を表に出さないようなデザインにすべき。また、桁のデザインを例えば立体トラスにすれば、透けて見えるようになる。細い線で構成される橋が、松江の風情には合うと思う。コンセプトや基本方針から導き出される橋の形がこれなのかと疑問に思う。
- ・松江の風景に繊細さを出すということは私も共感する。基本方針にもそうしたニュアンスが含まれている。
- ・橋脚のデザインについて、繊細なデザインにするためにどのような形があるのかを事務局で検討してほしい。ただ、現行のルールでは細い柱などで支えるということは不可能で、ある程度のボリュームは出てくると思うが、形の調整については検討の余地があると思うので、次回以降に案を提示して頂きたい。
- ・桁のデザインについて、今回の場合、路面高さを低くするという目的があるが、立体トラスでは桁の高さが高くなってしまう。
- ・今回の橋は、河川改修と航路利用の関係で桁下を上げなければならないこと、路面を下げなければならないことが条件としてあり、非常に上下に限られた空間の中でデザインをしていかなければならない。また、今回は4車線の車道橋であることから、車の荷重を考慮すると主桁にはどうしてもある程度マッシブなものが必要。それをさらにスリムにするためには、径間数や主桁の構造で調整していくということになるが、トラスのような細い部材でやろうとすると桁高が高くなってしまいうため、非常に困難であると考え

ている。

- 主桁ではないところでスリムを表現できないかと検討されたものがL案なんだろう。
- 例えば、ボックスで裏面が板の状な形状ではなく、細い部材が並んで連なっていれば水面から見上げた場合も綺麗に見えるのではないかな。
- 桁を鉸桁のような形で、数を多くした場合でもかなり桁高を高くしないと剛性が取れない。なるべく低く、外観がスリムになるようにという条件を考えると、形状は箱桁が良いのではないかなと思う。耐久性を考えると、箱桁のほうが維持管理しやすい。建設時以降のことも考えると、なるべく桁高を低く、部材の数を少なくするというのが理想的。
- トラス部材の話があったが、高さを低くすると上からの力に対して抵抗しなければならず、ケーブルで引っ張るなどプラス α の対処をしなければ、緊急輸送道路としての重量に耐えるだけの断面を確保するのが難しくなる。
- コンセプトやパブリックコメントからも、新大橋は周りの景色と融合してなるべく目立たないように、かつ特徴を持った橋という意見が多いと思う。私の意見としては、シンプルにしたほうが良いと思うので、桁で曲線が入った方が、スレンダーに見えるのではないかなと思った。
- 模型を見たが、5-L案がシンプルで機能性もあって良いと思う。
- 模型ぐらい張出部があった方が、日差しや眺める場所による表情の差が生まれたり、水面のゆらゆらとした風景も見られたりすると思うので、下から見ても良いと思う。張出部が大きい場合、支持部材の数は重量的にどのくらい必要なのか。高欄の支柱の数と同じようであるが。
- 張り出しの支持部材は通常 2m ピッチになっており、模型でも 2m 間隔で入っていると思う。本数を減らせば部材が太くなり、本数を増やせば部材は細くなる。ただ、細くするのは限界がある。意見があったように繊細さは大事なキーワードなので、繊細さをうまく出せるようなピッチを検討することが大切になる。また高欄の位置と張り出しの支持部材の位置は、意図的に合わせていると思うが、こういう細やかな気配りが出来上がりの見栄えに大きく影響するので重要だと考えている。
- (くにびき大橋の写真を提示しながら) 参考までに、この間隔が大体 2m ピッチで同じよ

うな感じ、新大橋の方が若干荷重が減るので張り出しがこのようになる。

- ・（松江大橋の図面を提示しながら）松江大橋は6本の橋桁で幅が12mある。新大橋の22mになるとこれの倍ぐらいの本数の橋桁を並べていく必要がある。
- ・資料P.7の設計方針のうち、エ)で「水平方向の伸びやかさと水面の近さ」とあるが、水面の近さは選択要素ではなく、スレンダーで桁が薄いということで選ばれているのでは。少し修正したほうが良いのではと思う。
- ・S案はコンクリート橋であり、資料P.5でM案、L案とは明らかに違う構造であることをもう少し強調したほうが良い。
- ・最終的に、選択肢が5-Sと5-Lに絞られたと思うが、5-Sはコンクリート橋で意匠を付加することができないため一番シンプルである。それに対して、5-Lは意匠の自由があり、繊細なデザインを追加することが可能。そうした違いを強調するような比較の表現にして頂きたい。
- ・橋脚について、まだ早い段階かも知れないが、表面処理についても分かるようにして頂きたい。宍道湖大橋は色々と検討して橋脚を作ったので、そのあたりを参考にしてもらいたい。
- ・必要に応じて修正する。5-Sの桁のボリュームの表現については、事務局で文言を修正して頂く。
- ・橋脚の表面処理についても、今後検討する際に宍道湖大橋の手法を参考に検討して頂く。
- ・資料P.5の右下、MとLの違いで歩行者空間を支える片持ち梁の部分が、下の方は頬杖をつけるような形になっている。それによって橋脚の幅が変わり、橋脚の材料費は減ることだと思うが、橋脚の幅が狭くなっても上に乗る荷重が同じだった場合、橋脚が厚くなるのかどうかを教えて頂きたい。

（上記質問に対する事務局説明）

この案に関しては、ほぼ同じ厚さである。5径間か3径間では変わるが、S、M、Lでの差はほとんどないと思って頂いて構わない。

- ・歩行空間を桁部分から半分張り出す案と、全てを張り出す案のどちらが良いのか判断しづらい。判断材料となるようなヒントがあれば教えて頂きたい。
- ・M案は、支持部材を使わずに張り出せる最大量が 1.5m で、そこからさらに張り出す場合はL案のように支持部材が必要になるということだと思う。
- ・景観を考えると、宍道湖周辺は特に大きなコンクリートで横を遮るようなことをなるべく少なくするような県の方針や宍道湖の景観形成がある。L案は、影が入ることによって奥行きが出るので、そこで薄く見えるような視覚的な変化ができると思う。橋脚も、なるべく奥にあった方がコントラストの効果でより繊細に見えるのではないかと。L案は景観の観点で評価すると、スレンダーに見えたり、影をうまく利用した見え方が可能になる。近景ではまた違った装いが見えるのではないかと。維持管理上はできれば錆びたりしないように張り出しは少ない方が良いが、景観的にはL案が配慮できる形ではないかと思う。
- ・影でスレンダーに見えるというのはまさにその通りで、効果が見込めると思う。
- ・是非このL案で進めてほしい。ついでに、桁にも影をとという話が出ていて、これはディテールのことなのでこれからの話になると思うが、なるべく表面に影ができるようなディテールを考えると、桁にもボリュームが出ずに繊細な感じになるのではないかと思う。ディテールの面で、シャープで繊細に見えるようお願いしたい。
- ・橋脚はコンクリートのままなのか。それともコンクリートはコンクリートでも最終的に石を張るとかそういう様な仕上げを考えているのか。
- ・橋脚の仕上げについてはまだ白紙状態だと思うが、昔、コンクリートの性能が著しく悪かった時に、型枠代わりにレンガや石を使っていたというのがあるが、全面を石にするというのが最近はやらないと思う。しかし、アクセントとして部分的に使うのは、国内に事例もあるし、アイデアとしてはあると思う。橋の雰囲気合うかどうかによってチョイスしていくと思う。心配されているのは、コンクリートのあまりにも無骨な表情だけじゃない仕掛けをした方が良いのではないかとということだと思うので、橋脚の検討の時に合わせて検討いただければと思う。

【総括】

- ・松江の繊細さを新大橋のデザインとして表現することは非常に大事な部分。繊細さをL案は表現できる可能性が高いということなので、基本的には5-L案をベースに進める。

- ・ 今後は、繊細さという部分を張り出しのところでもよく表現することになる。くにびき大橋では繊細さは出ていないので、より繊細な部分というのが表現できるような張り出しの支え方を検討する。
- ・ 桁に関しては、車道橋なのである程度スタンダードな構造を使わざるを得ず、この鋼箱桁自体は無骨になりやすいが、張り出し部だけを工夫すればいいということではなく、桁と張出部のバランスをどうとるかという視点でも検討する。
- ・ 橋脚について、上の桁の形状と合わせるような形や表情を検討する。
- ・ メンテナンスも大事になるので、デザインと共にメンテナンスの仕方も考えていくと良い。
- ・ 比較案のなかの表現の整合をとる。
- ・ 「水面がうつる」というのも非常に大事な言葉だと思うので、その点もこれから考えるにあたって意識する。

4. 議事3) 橋上空間について

【意見】

(1) 歩道空間について

- ・ アルコーブがあると、滞留スペースとして視覚的に認識はできるが、外観の出っ張りがどう見えるか少し難しいところである。
- ・ 新大橋にどうやって滞留してもらえるか、その動きを考えた人を呼び込む仕掛けづくりをしていく必要がある。
- ・ 前回の意見の中で、アルコーブの部分拡幅の理由として、例えば釣りをする人などがいて、通行の妨げになったり滞留する人がいるとの事だったが、シンプルイズベストということでこだわらない。
- ・ 歩行者空間について、施設帯の歩道側に手すりをつけていただけないか。おそらく目の不自由な方の点字ブロックを入れると思うが、そういう方が使われる手すりがあるって、点字ブロックがちょうどいい場所にあって、その隣を車椅子通行が出来るのが良いのではないかと思う。他の施設で、手すりや点字ブロックとスロープの位置が悪く、車椅子を押すと点字ブロックの上を通らなければならない不便な場所がある。高欄側ではなく、自転車道側に手すりとか点字ブロックを持っていけないかご検討頂きたい。
- ・ 橋を散歩で渡るとき途中で引き返すことがあるが、宍道湖大橋は真ん中まで行かないと滞留できないとか、橋の手前のところで寄りかかりたいとか、車椅子を押した人が回転できるようにするとすると、やはり歩道幅2mはギリギリと思う。そうすると車椅子で渡

るときベンチなど物を置くのは中々判断が難しいと思う。例えば円弧上にちょっと出せないのかとか、アルコーブではなくゆるやかな波型とか、いろいろなパターンが考えられないかと思った。

- ・利用面で「渡りやすく」と基本方針に入れているので、点字ブロックと車椅子というのがバッティングしないようにというのは非常に大事な視点。先のことになると思うが、その配慮を忘れずにいることが大事。
- ・確認したいが、歩道は最初の計画では 3m だったが、アルコーブを設けることによって 2.5m になる理由をもう一度説明頂きたい。なぜ 2.8m ではだめなのか。3m を確保した上でアルコーブを設けることがなぜだめなのか。という話をもう一度お願いしたい。

(上記質問に対する事務局説明)

歩道の幅員について、道路構造令など基準が色々あり、それに基づいて幅員を決めている。資料なかほどの絵にも描いてあるが、標準的には今の橋を渡る歩行者の数等から考えると、2m というのが取るべき標準的な有効幅員と考えている。この橋の北側も同時に整備を入れるが、その部分は有効幅員が 2m で計画を入れているところで、基本は 2m だと認識をしてもらって良い。ただ、新大橋の上は回遊性や、佇んで風景を眺めていただくとか、そういう観点も重要だということで、標準の 2m に 50cm 足して 2.5m の幅員を確保する計画としている。

- ・A 案は実際に歩ける幅＝有効が 2m、前後の取り付け道路は 2m で歩道が設定されているが、橋の上に限ってはあと 50cm 広げて、少しでも歩いたり高欄に寄りかかったりする人が出ても大丈夫なように、最初の時点で計画されているということである。そういう意味では、意見のあった波型にはなっていないが、全体を前後の取り付け道路から見ると、50cm ずつ外側に広げるように県の方であらかじめ計画しているという状態になっていると思う。
- ・アンケートとの関わりだが、利便性を良くしてくれとの声が非常に多かった。資料 P.1 のジの横断図を見ると、自転車道も確保されていて、そういう面で非常に応えている道路ではないかと思うが、このことを何かで説明するような形が必要ではないかと思う。
- ・前後の取り付け道路は 2m だが、橋はあらかじめ県の方で工夫して 50cm 広げた計画にしているのは大変優れた計画だと思うし、県が頑張ったという点は、市民の方にもちゃんとお伝え頂いた方が良くと思う。
- ・アルコーブについて、先ほどの意見でもシンプルイズベストでいいのではないかという

のがあった。日本でも一時期アルコーブを積極的につくることが行われたが、感覚としては、構造的に大きなたまり空間になっていないこともあって、あまり使われていない印象を持っている。

そう考えると、資料 P.3 のもたれかかっている人の写真で、例えば手すりの上の幅が、もたれかかったり掴んだりしやすい形にするという工夫をすることで、意見でもあったようにわざわざ橋の真ん中の休むところまでとかではなく、自分の好きなどころで休んだりできると思う。そうしたところに力を注いでいくのが良いのではと思う。

- ・最近学生を見ていると、非常に背が高く足が長い学生が多く、通常の橋梁の高欄を行くと、我々の年代だと大丈夫だが、学生を見るときものすごく腰が高く、通常の 1.1m では非常に怖い。へその位置が上がっている学生もいるので、今後は手すりの形状や高さを安全面からも考慮する必要があると思う。
- ・今の意見に付け加えると、小さい子どもも川面が見えるようになると良いと思うし、海外だと日本より低くスイスだと 1m くらいに抑えられているところもあるので、水辺に近づいても怖さを感じずに川面を見られるというのも大事な視点かと思う。

(2) 橋上空間の材料について

- ・石や瓦を是非使用してほしい。橋自体は無理でも橋詰空間での活用を考えて欲しい。例えば来待石でスタンドライトみたいなものも考えられており、瓦などのリサイクル材料や、資料の事例にあるようなセラミック製のトップレールと似たようなもので舗装材に使えるものだと、橋詰空間の人が歩く所に使うことができる。元々ある材料と、リサイクルの様に新技術でできた材料の両方が新大橋のどこかで使われていると良い。
- ・材料の話で、今回地場産材をこれから検討するとき、リサイクルの材料も検討していただければと思う。

(3) 夜間景観について

- ・光の色は大事だと思う。京橋川のような夜景も良いが、現在の大橋川の夜景は違った演出があってもよいのではないか。
- ・照明の数は多すぎない方が良いが、安全面も考慮する必要がある。
- ・従来どおりの照明柱でやるのがいいのか、逆にライトアップ的な、安全面を見ながら間接的に施設のところから光が出る形で、表面に出ない形もあるのかもしれないと感じている。

- ・歩道と車道間の施設を使いながら、そこから大きくない形で、ある程度の間隔で灯りがあると明るさが保てるかもしれないので、大きな照明柱というのはどうかとも思っている。検討いただきたい。
- ・照明について、橋上の照明は、当然照度は計算されて、必要な数、照度を確保できるものを選ばれると思うが、橋全体のライトアップは松江市の管轄か分からないが、ライトアップの話は最終的にどうしても出てくると思う。その時に県が知らん顔で進めるのか、そういうところの協議もするのか、教えていただきたい。
- ・ライトアップについてはご意見をもらいながら検討していくが、やるとしたら県の橋なので松江市ではやらないと思うがどうか。
- ・今、松江大橋は（県道だが）松江市がやっていて、宍道湖大橋は県が工事の時に設置している。管理者も違って設置者も違う場合もある。くにびき、だんだんの場合は橋上照明だけでライトアップはない。
- ・色が大事ではないかという意見があった。新大橋の夜景の現況写真をご覧くださいと、すごく白い色の照明になっているが、一方で右上の松江大橋の方は温かみのある色になっていて、白っぽさが前面に出てくると暖色系が出てくるのでは全然雰囲気が違うのではないかということだと思う。これは大事な視点ではないかと感じている。これは新大橋だけで決められることではないが、松江大橋と両岸を見ると転々とした灯りが連なっているようになっていて、今回橋の事を最初に議論した時、新大橋もあるが、松江大橋の間を人が回遊している、ここにひとつの場が生まれていくことを考えていくべきではないかという意見もあったので、できれば新大橋単体での視点だけではなくて、結果として大橋川が夜に歩いても楽しいということに寄与できるような照明のあり方もあると思う。
- ・15年位前、松江市の照明計画というマスタープランがあった。これは松江駅を出発して中心街までライトアップをしていこうということで、その一環で今の東本町北側の川縁の黄色っぽい色になっている。それを追いかけて市は松江大橋を今の色にしている。そのマスタープランがまだ生きてるか分からないが、もし生きていればその趣旨のもとに一貫性があれば良いかと思う。
- ・松江大橋に付ける照明と大橋川沿いの照明、また、新大橋の照明はそれぞれのデザインは違うものになると思う。ただ、点灯した時の色や雰囲気づくりについては、松江市の照明のマスタープランがあれば、それも踏まえて考えた方が良いと思う。

【総括】

- ・幅員構成について、橋の上だけは頑張って滞留スペース幅をとっているということを、市民意見交換会の時などに伝えるべき。基本的には全体を 50cm 拡幅することで歩きやすく、場合によっては高欄に寄りかかっていたりして佇んでいる人がいても通行が阻害されない、特に、車椅子と点字ブロックのことも配慮して、その位置は両者がお互いにぶつからないよう検討していく。
- ・材料について、寄りかかって眺められるような形を考える中で、地場産材の活用もだが、リサイクル材も検討に入れる。また、島根は日本遺産で鉄の産地が入っており、鉄も検討する。
- ・照明について、大橋川全体も意識して検討する。また、照明のマスタープランを市に確認し、必要に応じて調整をとる。

5. 議事 4) 市民意見交換会の開催について

【意見】

- ・意見交換会においては、複数案を提示した上で、委員会としての推奨案を示すといった形にできないかという検討をしてほしい。
- ・事務局説明時に流した動画に大橋川の護岸が映っていたが、決定されたものか。計画の断面であれば疑問がある。

(上記質問に対する事務局説明)

今は現況のものが入っており、その現況のまま意見交換会に出す予定。

- ・大橋川の改修に関する景観の指針などは整理させていただいているが、実際新大橋の架け替えに伴って、近辺の改修と合わせてどうするかについては、具体的に整理ができていないので、将来系でそういった計画の指針と合わせて、護岸を具体的に示すのは難しい。
- ・現況が入っていれば問題ない。
- ・意見交換会の主なテーマの1つとして、今日の委員会で5-Lの案になったことを説明することがあるが、今回パブリックコメントの中で、市民参加について興味のある方が沢山おられるので、これからどのようなことを考えているのかを提案していくこともある。市民参加の方法は色々ある。以前も紹介したが、寺社と同じ方法で材料寄付型といって、たとえば手すりの足元などのデザインされた部材を、賛同していただける市民の皆さんに寄付していただき、記名して使わせてもらう事例や、木の手すりを地元の方たちがオイルを塗ってメンテナンスされている事例もある。あるいは、委員会の中で、橋桁や舗装の色

を3案ほど絞り込んで、最終的には市民投票で色を決めるという方法もあると思う。いずれにしても、意見交換会では、市民の皆さんにアイデアをご説明して、それはぜひやった方が良くという意見を頂ければ、取り組んでいくのが良いと思う。計画から建設までのプロセスを通じて、市民の新大橋への気持ちや関わりをどうやって盛り上げていくかを考えてもらいたい。

- ・ 前回、藤居委員から橋梁の色をグラデーションにできないかという質問について、調べてみたところ、神奈川県犀川にあるトラス橋は、2度にわたり市民参加でグラデーションの色を決めている。市民参加の機会を与えていただければ、市民になじみのある橋になると期待している。

- ・ 実際、やったことがあるが、施工する時に、大きなクレーンに委員会で絞った3色ぐらいの色を鉄板に付けて釣り上げると、大橋川には多くの方が並んでも見ることができるので、何らかの形で投票するような仕組みを作っていただければその中で決めるということは考えていただければできるのではないかと思う。作っていく過程がイベントになると市民の皆さんが楽しく待っていただける。そのようなことも意見交換会で提案していただくと良い。

【総括】

- ・ 意見交換会は、事務局が提案したものに加えて、市民参加の提案について検討したうえで開催する。

以上